

## 高知県初記録のウスベニツバサカノコ (腹足綱: アマオブネ科)

佐藤友康\*・町田吉彦\*\*・山本藍子\*\*

New record of a brackish water snail *Neritina* sp. from Kochi Prefecture  
(Gastropoda: Neritidae)

SATO Tomoyasu\*, MACHIDA Yoshihiko\*\* and YAMAMOTO Aiko\*\*

**Abstract** In 2004, a specimen of neritid snail *Neritina* sp. was collected from the mouth of the Misaki River at Tatsukushi in Tosashimizu City, Kochi Prefecture, southern Japan. Currently, this species has been known only from several rivers in Amami-ohshima Island and Okinawa Island, southernmost district of Japan. A brief description, figure and comments on habitat of this species are given.

**Key words:** tidal zone, neritid snail, *Neritina* sp., first record, Kochi Prefecture.

腹足綱アマオブネ科のウスベニツバサカノコ (*Neritina* sp.) は増田・内山 (2004) により報告されたが、奄美大島や沖縄島の数河川からしか知られていない種であり、小さな河川の感潮域の小礫の裏面に付着するとされている。

著者らが実施している干潟環境の底生動物調査で、2004年に1個体のアマオブネ科の標本が土佐清水市の三崎川で採集された。高知県の汽水域に生息するアマオブネ科は5種で、それらのうちヒロクチカノコ *Neritina* (*Dostia*) *cornucopia* が本県の絶滅危惧 IA 類に指定されている (高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会, 2002)。三崎川で採集された種はヒロクチカノコの未成貝によく似ているが、検討の結果、ウスベニツバサカノコと判明した。三崎川は従来の産地と飛び離

れていることから、以下に報告する。

標本は四国自然史科学研究センターの軟体動物標本 (SINH-MO 22) として登録され、75%エチルアルコールで保存されている。なお、緯度・経度および距離は、アルプス社の電子地図ソフト ProAtlasX version 2 より求めた。

三崎川は土佐清水市の今ノ山の南東面に源を發する流程11km弱の小規模河川である。標高868mの今ノ山は幡多地方南部の最高峰で、頂上はほぼ北緯32°51'15"、東経132°50'57"に位置する。三崎川の河口の位置はおよそ北緯32°47'02"、東経132°52'18"で、県内有数の景勝地である足摺宇和海国立公園の竜串海岸の東端部に位置する。三崎川は急勾配の河川で、今ノ山の頂上と三崎川の河口の水平距離は約7.8kmしかなく、河口部付近に

\*株式会社東洋技研

〒783-0085 南国市十市4465-19

Toyo Giken Co., 4465-19, Tochi, Nankoku 783-0085, Japan

\*\*高知大学理学部海洋生物学研究室

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

Laboratory of Marine Biology, Faculty of Science, Kochi University, 2-5-1, Akebono-cho, Kochi 780-8520, Japan

人家があるが、ほとんどは山間地を流れる。河口付近の底質は礫で、両岸にわずかに砂が堆積する。高知県による2003年度の水質調査結果では、国道321号線に架かる竜串橋下でのBODの年平均値は0.5mg/lである（www.pref.kochi.jp/~kankyou/15kasen.xls）。

標本は2004年12月27日に著者の一人、佐藤により汽水域の河床の礫の下面から採集された。採集地点は竜串橋から約200m下流である。標本の殻径は7.0mm、殻高は3.1mmで、外唇は薄く、体層はきわめて大きい（Fig. 1）。殻口は中央部がやや幅が広い。殻の表面は平滑で、三角形の網目模様が認められる。内唇縁におよそ14の鋸歯状の刻みがあるが、両端部の刻みは不鮮明である。滑層外縁は後方に張り出さない。蓋に雲状の斑紋がある。

本標本のこれらの形質は、増田・内山（2004）によるウスベニツバサカノコの記載とよく一致し、本種と同定した。

本標本が得られた三崎川の河口部は千尋岬と竜串にかけての海岸線の奥部に位置するが、この間に存在する河川は三崎川のみで、ほぼ直接的に外海に面し、河口干潟も発達していない。三崎川の

下流部は田園地帯を流れているが、河口付近の底質は礫であり、泥の堆積はわずかししか認められない。このような河川環境は、増田・内山（2004）が示した本種の生息環境と一致すると考えられる。

増田・内山（2004）は、本種の殻径を10mm、殻高を7mmと報告しており、本標本は未成貝と判断される。また、発見された個体が未成貝1個体であったことから、三崎川に本種が定着している可能性は低いと考えられる。今後、本種の地理的分布の拡大を確認する上で、足摺宇和海国立公園の感潮域での本種のより綿密な調査が必要となる。

#### 謝 辞

本種の同定に関し、貴重なご意見をいただいた三本健二氏（日本貝類学会会員）に厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会（編）. 2002. 高知県レッドデータブック [動物編]. 高知県文化環境部環境保全課, 高知県, 470pp.
- 増田 修・内山りゅう. 2004. ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ2, 日本産淡水貝類図鑑, ② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240pp.

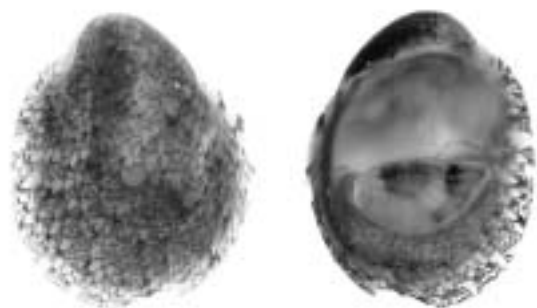


Fig. 1. *Neritina* sp., SINH-MO 22, from Tosashimizu City, Kochi Prefecture, southern Japan.

（原稿受理 2006年3月31日）